
3R 推進団体連絡会 第一次自主行動計画（2006～2010年度）
5年間の取り組み成果と2010年度フォローアップ報告

2011年12月

3R 推進団体連絡会

目 次

第一次自主行動計画 5 年間の取り組みの成果	1
1. 事業者による 3R 推進に向けた自主行動計画.....	2
2. 主体間の連携に資するための行動計画	9
3. 次期自主行動計画に向けて	12
2010 年度分のフォローアップ報告	13
1. 事業者による 3R の取り組み.....	13
2. 主体間の連携に資する取り組みの実績概要	15

第一次自主行動計画 5 年間の取り組みの成果

3R 推進団体連絡会 自主行動計画策定の経緯

2000 年に完全施行された容器包装リサイクル法は、2006 年 6 月に初の法改正が行われました。改正に先立つ 1 年半にわたる中央環境審議会・産業構造審議会での議論の過程で、(社)日本経済団体連合会(以下「経団連」)は、提言「実効ある容器包装リサイクル制度の構築に向けて」(2005 年 10 月)を取りまとめ、事業者の自主的な取り組みが重要であること等を表明しました。

これを受けて、容器包装の素材に係るリサイクル八団体(以下「関係八団体」)は、3R 推進団体連絡会を結成し、2005 年 12 月、「容器包装リサイクル法の目的達成への提言」と題する提言を行い、事業者の決意をあらためて表明すると共に、翌 2006 年 3 月に 2010 年度を目標年次とした自主行動計画、「事業者による 3 R 推進に向けた自主行動計画」、及び「主体間の連携に資する取り組み」を発表しました。

計画のフォローアップと見直し

当連絡会では、計画に基づき計画項目の達成に向けた取り組みを進めるとともに、毎年度の進捗状況を、翌年 12 月にフォローアップ報告として公表してきました。数値目標も含め、共通の取り組み課題を持って事業者自身が 3R 推進に取り組んだこと、また、消費者や自治体、学識経験者など様々な主体との連携を図ってきたことなど、関係八団体が実施する初の共同の取り組みとして、一定の成果が挙げられたものと考えます。ここでは、第一次自主行動計画の目標年次、2010 年度までの 5 年間の取り組みを概括します。

1. 事業者による 3R 推進に向けた自主行動計画

1.1 計画の概要

下図のとおり、関係八団体ごとに、リデュース・リユース・リサイクルの取り組み目標・項目を設定しています。基準年次は 2004 年度、目標年次は 2010 年度です。

事業者自ら実施する 3 R 推進計画

リデュース

- ・軽量化・薄肉化等による使用量削減（数値目標含む）
- ・適正包装の推進
- ・詰め替え容器の開発等

リユース

- ・リターナブルシステムの調査・研究

リサイクル

- ・つぶしやすい容器包装の開発
- ・洗浄・分別排出への啓発
- ・減容化機器の調査・開発
- ・リサイクルしづらいラベルの廃止、及びはがしやすいラベルの工夫
- ・複合素材の見直し
- ・自主回収の研究・拡大

1.2 5年間の取り組みの成果

リデュース・リサイクルの数値目標は、8 素材中、リデュースが 7 素材で、リサイクルが 5 素材で目標を達成しました。
また、複合素材の見直し、リターナブルシステムの実証実験、つぶしやすい容器の開発、自主回収の調査研究など、3R 推進に向けた各種取り組みを展開しました。

リデュースの取り組み

リデュースに関しては 7 ページ表 1 のとおり素材別に数値目標を定めて軽量化・薄肉化の取り組みを進めました。その結果、8 素材中 7 素材が 2010 年度目標を達成しました。

また、数値目標以外でも、適正包装の推進や詰め替え容器の開発・普及等に向け、紙製容器包装、プラスチック製容器包装などで 3R 事例集を作成し、関連企業に周知徹底するなどの取

り組みを実施しました。今後のリデュースの方向性としては、容器包装の本来の役割である中身製品の保護、安全・安心の確保を前提としつつ、製品全体の環境負荷軽減とのバランスに配慮していくことが求められます。

【リデュースの取り組み事例】

ガラスびん軽量化商品の紹介(ガラスびんリサイクル促進協議会ホームページ)

PET ボトル 3R 改善事例集より

商品名：「チョココ」	会社名：(株) ロッテ	商品名：「オリケシDX」	会社名：(株) バンダイ
<該当事項> 小型化	<事例説明> cartonのサイドフラップ、全面フラップを短縮	<該当事項> 小型化	<事例説明> 電子レンジを使ってオリジナルのケシゴムを作る「オリケシ」という女児ホビー商品です。箱の形状改善により小型化しました。
<p>変更前 変更後</p> <p>18mm削減 8.5mm削減 18mm削減</p> <p> cartonの サイドフラップ18mm 前面フラップ8.5mm 短縮</p>	<p>①スリーブ形状にすることにより面積で276cm²の削減が実現しました。 ②また当商品のスリーブより中の部分は収納バッグとして機能するため、通常の玩具では廃棄されてしまう部分を有効活用しています。</p> <p>③中の部分は収納バッグとなります。</p>		
効果 紙の使用量を8.7%削減		効果 パッケージ(合計面積276cm ²)の紙資源の削減	

紙製容器包装 3R 改善事例集第 4 版より

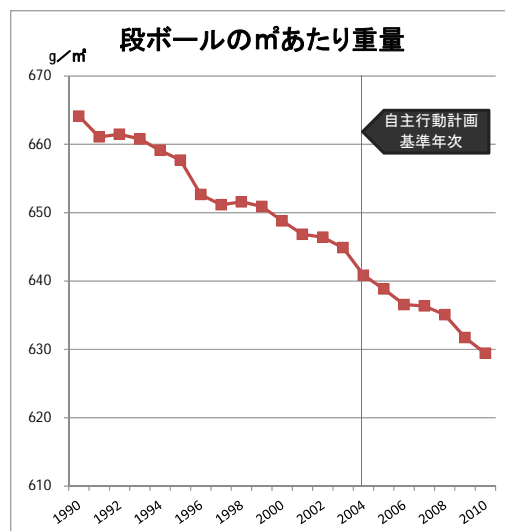
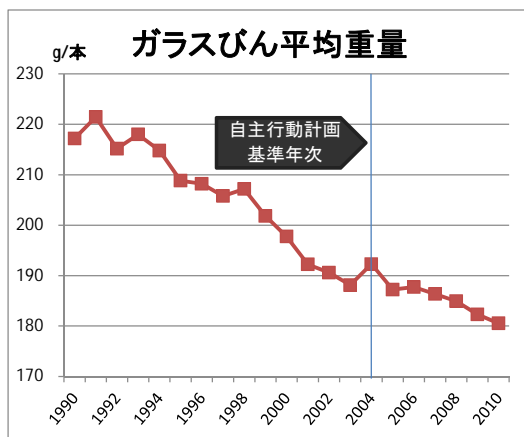
商品名	セグレタヘアエステ	事例項目	資
会社名(推薦会員) 花王株式会社(日本石鹼洗剤工業会)			
【事例説明】 商品の高級感を落とすことなく、包装材料の削減を図った。 トレイ、台紙を省却した。 クリアサックをスリーブに変更した。		【効果】 1 真空成型トレイ(PP 4.0g): 削除 2 台紙(蒸着紙 3.0g): 削除 3 クリアサック(PP 17.3g)⇒スリーブ(PP) 削減率: 70%	
 <p>クリアサック</p> <p>真空成型トレイ</p> <p>台紙</p>		 <p>スリーブ</p>	

プラスチック製容器包装 3R 改善事例集第 3 版より

商品名	まぶして頂くだけ! カツレツの素	事例項目	【リデュース】 その他
会社名(推薦会員名) 株式会社ダイショー(凸版印刷株式会社)			
【事例説明】 従来はプラスチックボトルにシュリンクフィルムという包装形態であったが、商品リニューアルに伴いチヤック材スタンディング袋に切り替え、包材の減量化を図った。		【効果】 包材の軽量化率は約74%	
			
【事例説明】 包装形態を見直し、紙製包装とプラスチック製容器の二重包装から、紙製容器のみを使用することで、容器包装の簡素化と軽量化を行った。		【効果】 プラスチック製容器(外袋)を廃止し、年間約2.7%のプラスチック資源を削減した。(製品1個あたりの容器包装重量も約30%の軽量化につながった。)	
			

コラム ~ 自主行動計画策定以前の取り組み例 ~

各容器包装の製造・利用事業者、事業者団体は、中身製品の安全・安心を保ちつつ、資源の利用量を削減し、環境負荷を削減するための取り組みを、自主行動計画が策定された2005年以前から続けてきています。



ガラスびんや段ボールの軽量化の例

リユースの取り組み

リユースについては、第一次計画ではリターナブルシステムの調査・研究を掲げ、ガラスびん・PET ボトルで取り組みを進めました。

ガラスびんリサイクル促進協議会では、経済産業省「地域省エネ型リユース促進モデル事業」、環境省「リターナブルびん利用促進事業」などモデル事業に積極的に参画し、リターナブルびんのPRや効率的な回収方法について調査・研究を行いました。また、リターナブルびんの普及に向け、規格統一Rびんのリユース化事業や居酒屋チェーン企業と連携したPB清酒のリユース化事業など関係団体との連携を強化したり、一般家庭市場での「リターナブルびん回収拠点マップ作り」に取り組んでいます。

このように、消費者・自治体・流通/販売事業者やびん商といった関係者との連携により地域や市場性に合わせた取り組みや、消費者意識喚起に向けた情報発信を継続しています。

PET ボトルについては、環境省主管による「PET ボトルを始めとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的利用に関する研究会」に参画し、調査研究を進めました。その結果、誤用による吸着汚染物質の内容物への再溶出の危険性がある事、また、リターナブルシステムが環境負荷の面で現行システムより良いのは、極めて限定的な条件下である（90%以上の回収率で、100km 圏内の搬送）という結果が得られたことから、調査研究を終了としました。

今後ガラスびんのリユースについては、地域的・市場的に優位性のある場面において流通・販売やびん商等関係主体との連携を一層深め、消費者の賛同を得て進めていきます。また、マイカップ・マイボトル運動など生活スタイルを見直していこうという動きもあることから、消費者意識などの把握・分析も進めていきます。

【リユースの取り組み事例】



茅ヶ崎市におけるリユース
モデル事業



リターナブルびん利用促進モデル事業
(モデル事業用ネックリンガーと販売風景)

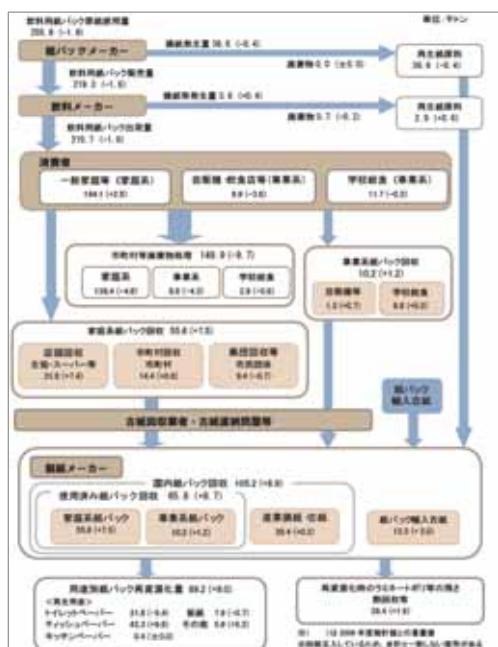
リサイクルの取り組み

リサイクル率・回収率の数値目標については、8ページの表2に見るとおり5素材が2010年度目標を達成しました。また、リサイクルに関する指標を可能な限り統一化するため、各容器リサイクル団体では指標の把握を進め、必要に応じて指標の見直しを行いました。

数値目標以外の取り組みでは、つぶしやすい容器包装の開発、減容化可能容器や複合素材についての研究・開発について一定の成果が挙げられました。また、自主回収の研究・拡大についても、アルミ缶・スチール缶の集団回収推進、紙パックの拠点回収の推進などの取り組みが進みました。

今後とも、数値の捕捉精度向上を図るとともに、リサイクルを容易にするための環境配慮設計の水準向上や、集団回収など自主的回収を支援するための取り組みも引き続き行っていきます。

【リサイクルの取り組み事例】



紙パック材料アルフロー調査



プラスチック製容器包装の組成分析調査

リサイクルフローの調査

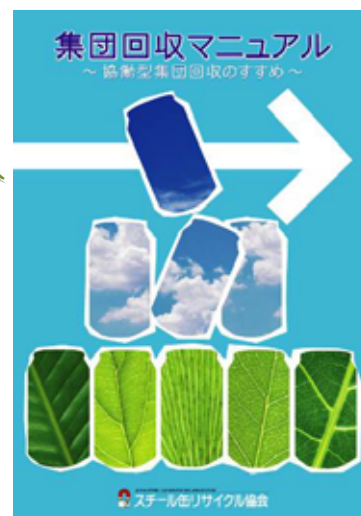
集団回収などの推進



リサイクル団体の表彰
(アルミ缶)



集団回収現地調査



スチール缶集団回収マニュアル

表 1 リデュース実績総括表（2006～2010年度）

素材	2010年度目標 （2004年度比）	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度 〔カッコ内は資源節約量の 5年間累計〕
ガラスびん	1 本あたりの平均重量を1.5%軽量化する。	1.0%	1.3%	1.4%	1.8%	1.7%軽量化 (92,2千t)
PETボトル	主な容器サイズ・用途ごと に1本あたりの平均重量を3%軽量化する。	主な容器サイズ・用途15種の 内9種で0.2～8.0%軽量化	15種中8種で 0.9～10.0%軽量化	15種中13種で 0.1%～11.0%軽量化	15種中13種で 0.3%～15.0%軽量化。	15種中13種で0.2～19%の 軽量化。9種で3%の目標を 達成。全体としての軽量化率 で7.6%。(165千t)
紙製容器包装	2%削減する。	0.8%増加	0.1%増加	0.5%削減	10.7%削減	6.7%削減 (358千t)
プラスチック 製容器包装	3%削減する。	1.3%削減	5.8%削減	7.9%削減	9.1%削減	9.8%削減 (51.4千t)
スチール缶	1 缶あたり平均重量で 2%軽量化する。	1.0%	1.1%	2.0%	3.4%	4.1%軽量化 (49.4千t)
アルミ缶	1 缶あたり平均重量で 1%軽量化する。	0.7%	0.5%	0.8%	2.1%	2.5%軽量化 (6,9千t)
飲料用紙容器	重量を平均1%軽量化 する。	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
段ボール	1 m ³ あたりの重量を 1%軽量化する。	0.6%	0.7%	0.9%	1.4%	1.8%軽量化 (529千t)

2006～2009年度の実績値については、最新のデータ精査により遡って修正しているものもあります。

表 2 リサイクル実績総括表（2006～2010年度）

素材	指標	2010年度目標	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
ガラスびん	カレット利用率 （リサイクル率）	91%以上 （70%以上）	93.9% （60.4%）	95.5% （63.9%）	96.9% （65.0%）	97.5% （68.0%）	96.8% （67.1%）
PET ボトル	回収率	75%以上	66.3%	69.2%	78.0%	77.5%	72.1%
紙製容器包装	回収率	20%以上	15.2% （行政回収のみ）	15.4% （行政回収のみ）	14.2% （行政回収のみ）	19.1% （内、行政回収 13.9%）	20.3% （内、行政回収 13.9%）
プラスチック製 容器包装	収集率	75%以上	54.0%	58.1%	59.0%	60.4%	60.1%
スチール缶	リサイクル率	85%以上	88.1%	85.1%	88.5%	89.1%	89.4%
アルミ缶	リサイクル率	90%以上	90.9%	92.7%	87.3%	93.4%	92.6%
飲料用紙容器	回収率	50%以上	37.4%	41.1%	42.6%	43.5%	43.6%
段ボール	回収率	90%以上	92.2%	94.4%	95.1%	100.6%	99.3%

2006～2009年度の実績値については、最新のデータ精査により遡って修正しているものもあります。各指標の計算方法については、22ページ以降の団体別 2010年度フォローアップ結果をご参照ください。

2. 主体間の連携に資するための行動計画

2.1 計画の概要

下図のとおり、「主体間の連携に資するための行動計画」は「関係八団体共同の取り組み」と「各団体が取り組む共通のテーマ」の2本柱となっています。

「共同の取り組み」では、3R推進団体連絡会として容器包装3Rに向けた様々な普及啓発活動、他主体との共同事業に取り組みました。他方、「各団体が取り組む共通のテーマ」は、3R推進団体連絡会が設定したテーマに沿って、各団体が個別に連携推進に係る活動を展開しました。

主体間の連携に資するための行動計画

関係八団体共同の取り組み

容器包装廃棄物の3R推進・普及啓発のため、

- ・フォーラムの開催
- ・セミナーの開催
- ・各団体ホームページのリンク化・共通ページの作成等による、情報提供の拡充
- ・エコプロダクツ展への共同出展

各団体が取り組む共通のテーマ

情報提供・普及活動

(各団体の既存の取り組みの活用も含む)

- ・環境展等の展示会への出展協力及び充実
- ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO・学校等主催のイベントへの協賛と協力
- ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO等の研究会への参加と協力
- ・3R推進・普及啓発のための共同ポスター等の作成

調査・研究

- ・分別収集・普及啓発の高度化・効率化等の研究会への協力
- ・分別収集効率化等のモデル実験への協力
- ・リターナブルびんのモデル実験の実施
- ・店頭回収・集団回収の高度化及び品質向上化等の研究会への協力
- ・消費者意識調査の実施

2.2 取り組みの成果

計画項目をさらに超え、多様な取り組みを実施しました。

表 3 に「関係八団体共同の取り組み」に関するこれまでの主な取り組み実績を示します。

フォーラムやセミナーの実施、ホームページのリンク化、展示会への出展といった共同の取り組みの計画項目は全て実施し、さらに AC ジャパン支援による普及啓発事業や小冊子「リサイクルの基本」の全国配布、2 回にわたる消費者意識調査など、多様な取り組みを推進しました。

表 3 主体間連携のための取り組みの実施状況

年 度	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
容器包装 3R 推進 フォーラム	横浜市 8/29・30	神戸市 9/19・20	東京都 10/6・7	京都市 10/22・23	さいたま市 10/25・26	名古屋市 10/24・25
容器包装 3R セミナー	東京都 '07/2/28	北九州市 10/19 川崎市 '08/2/18	京都市 '09/3/7	仙台市 '10/2/2	名古屋市 '11/2/5	福岡市 (予定) '12/1/20
3R リーダー 交流会		交流会を 4 回実施	交流会を 5 回実施	3R 啓発小冊子 「リサイクルの基本」 を作成	3R 啓発小冊子 「リサイクルの基本」 完成・配付	「リサイクルの基 本」地域版 ワークショップ 川崎市
展示会への 共同出展	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/19～21 名古屋市 エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/17～19 北九州市 エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/24～26 山形市 エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/16～18 千葉市 エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	2010 東京国際包装展 (東京バック 2010) 10/5～8 東京都 エコプロダクツ展 12/9～11 東京都	エコプロダクツ展 12/15～17 東京都
AC 支援によ る啓発事業			なくなるといいな 「ごみ」 という言葉	リサイクルの夢	ちょっとだけ バイバイ	
マスコミ セミナー・ 交流会				消費者の 3R 行 動に影響するマス コミ報道を考える 9/18 東京都	マスコミ関係者と 3R 推進団体が 語り合う懇談会 8/26・11/26 東京都	市民リーダー3R 推進モデル講座
各主体の 参画する 研究会					容器包装 3 R 制度研究会 (年 3 回実施)	容器包装 3 R 制度研究会 (年 2 回実施)
消費者意識 調査				第 1 回調査		第 2 回調査
その他	共通ポスター 作成 各団体のホーム ページリンク化		ホームページの 開設	(財)クリーン・ ジャパン・センタ ーへの 3R 学習 教材用サンプル 提供	経産省でのパネ ル展示に協力 せたがや・環境 行動 DAY2010 への出展協力	

各主体との交流・意見交換

主体間の意見交換・情報交換の場として、自治体との連携による「容器包装 3R フォーラム」、消費者との意見交換の場として「容器包装 3R セミナー」、メディアとの共通認識づくりのための「マスコミ懇談会」を実施しました。例えば、フォーラムは6都市のべ1,400名以上の参加で市民、行政関係者、学識研究者との交流・意見交換が持たれ、容器包装の3R推進に向けた課題の共有等に大きく寄与したものと考えます。



フォーラム（さいたま市）

ホームページや共同ポスターの作成

2008年5月、当連絡会のホームページを開設し、連絡会の活動報告、構成団体ホームページへのリンクなどを行いました（url <http://www.3r-suishin.jp/>）。また、連絡会としての共同ポスターを作製し、各団体を通じて自治体や消費者団体に配布しました。



3R 推進団体連絡会ホームページ



共同ポスター

消費者や自治体の活動支援

各地でご活躍の消費者リーダーに事業者の取り組みをご理解いただき、情報共有を図る目的で、「3R リーダー交流会」を2007年度から続けています。その成果のひとつとして、小冊子「リサイクルの基本」を作成し、2010年7月に全国自治体に配布しました。その後も累計で4000部以上に追加配布され、自治体・市民活動の現場で大いに活用されています。多様化した市民・消費者を前提としてまとめられた、こうした8素材全体のベーシックな情報の集約が大切であることが実感されます。



3R リーダー交流会



リサイクルの基本

普及啓発事業

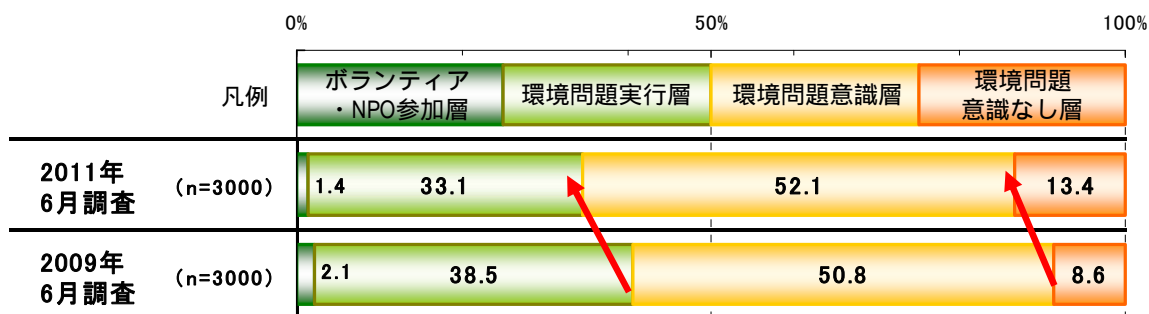
事業者団体ならではの効果的な普及活動として、2008 年から 3 年間にわたって AC ジャパンの支援事業による 3R 推進広告を展開いたしました。08 年は“なくなるといういい「ごみ」ということば”、09 年は環境省が主催する「第 13 回環境コミュニケーション大賞」でテレビ環境 CM 部門優秀賞を受賞した“リサイクルの夢”、そして最終年度となりました 10 年の“ただしく分けてちょっとだけバイバイ”です。



AC 支援広告

調査研究事業

2009 年、2011 年の 2 度にわたり消費者アンケート調査（インターネット調査）を実施し、容器包装 3R に関する消費者意識を調査・分析しました。例えば、環境問題に係る意識・行動では、2009 年の調査時に比べて「環境問題実行層」が 5 ポイント減少、「環境問題意識なし層」が 5 ポイント増加するなど、環境意識が低下している結果となりました。3R 推進に係る広報は、事業者のみならず国・自治体・企業・消費者リーダー等と共に進めていく必要があります。こうした情報を国など関係機関と共有するとともに、今後の活動に役立てていきたいと考えています。



消費者意識調査（抜粋）

3. 次期自主行動計画に向けて

当連絡会の自主行動計画も、最初の目標年度である 2010 年度を終了いたしました。各主体の役割の深化と連携の推進が求められている中、今後、より良い容器包装リサイクル制度を検討する上での基本的な情報を社会に提供できたものと考えます。

今後とも、第一次自主行動計画の成果を踏まえ、より一層の 3R の推進に取り組むべく、2011 年 3 月に「第二次自主行動計画」(目標年度：2015 年度)を策定し公表しました。その内容を当連絡会のホームページ (<http://www.3r-suishin.jp/sub1.html>) に掲載していますので、是非ご参照ください。引き続き消費者・自治体・国、そして報道関係の方々等関係者の皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

2010 年度分のフォローアップ報告

1. 事業者による 3R の取り組み

1.1 リデュース

8 素材中 7 素材で 2010 年度目標を達成しました。

軽量化・薄肉化等による使用量削減（数値目標）

2010 年度のリデュース実績は、前述 7 ページの表 1 に見るとおり、7 素材で概ね 2010 年度目標を上回りました。

適正包装の推進 / 詰め替え容器の開発等

2 ページにも記述いたしましたが、各団体では、容器包装に使われる天然資源の削減に向けて、改善事例を会員企業に普及啓発するなどの取り組みを進めました。例えば、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会や紙製容器包装リサイクル推進協議会では、会員団体、及び傘下の各事業者を通じ、改善事例の結果を 3 R 事例集として取りまとめ、さらにこれを毎年度改定することにより、業界全体のレベルアップを図るべく取り組みを進めています。

適正包装の推進や詰め替え容器の開発状況についての詳細は、末尾の「団体別 2010 年度フォローアップ結果」をご参照ください。

1.2 リユース

リターナブルシステムの調査・研究を継続していますが、地域や市場性に合わせた取り組みを強化すべく、関係主体との一層の連携を深め、システム再構築に向けた取り組みが必要です。

リターナブルシステムの調査・研究については、ガラスびん・PET ボトルを中心に取り組みを続けてきましたが、2009 年に環境省「PET ボトルを始めとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的利用に関する研究会」で PET ボトルのリユースについて一定の結論が得られた（ ）ことから、2010 年度の取り組みはガラスびんについて報告します。

ガラスびんリサイクル促進協議会では、2010 年より地域型びんリユースシステム再構築に向けた取り組み準備を行い、環境省の「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」（2011 年）に参画しました。また、びんリユース実証事業の取り組み準備をはかり新たな推進体制として「びんリユース推進全国協議会」（2011 年 9 月設立）の立上げ準備をおこなってきました。さらに、2009 年 2 月に立上げた WEB サイト「リターナブルびんポータルサイト」にて、リターナブルびんの P R やリユース推進活動の「見える化」に取り組み、情報発信に努めています。

環境省主管「PET ボトルを始めとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的利用に関する研究会」2009 年 8 月公表内容の抜粋：

- ・リターナブル PET ボトルは、回収率が 90%以上で、輸送距離が 100 k m 未満という限られた条件下でのみ、ワンウェイ PET ボトルより環境負荷が小さい
- ・誤用など予期せぬ汚染があった場合、現在の洗浄・検査技術では 100%の除去は困難である（詳細は PET ボトルリサイクル推進協議会の団体別フォローアップ報告参照）

1.3 リサイクル

5 素材が 2010 年度目標を達成しました。

リサイクル率・回収率等の維持・向上（数値目標）

リサイクル率・回収率の 2010 年度実績は 8 ページの表 2 に示したとおり、5 素材が 2010 年度目標を上回りました。資源リサイクルは景気や為替動向の影響を受けやすい面もあり、素材によっては一進一退の状況が続いています。今後とも各主体との連携のもと、取り組みを進めていきます。

リサイクル推進のための事業者の取り組みなど

リサイクル性の向上のための技術開発や自主回収の拡大・研究活動、及び自主設計ガイドラインの策定・運用による環境配慮設計の推進、容器包装への識別表示の実施率の向上など、主な事例を表 4 に示します。詳細は各団体資料をご参照ください。

表 4 リサイクル推進のための事業者の取り組み事例

項 目	取り組み事例
リサイクル性の向上	<p>つぶしやすい容器包装の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たたみ易い段ボールの具体例を調査し、ホームページに掲載した。(段ボール) <p>減容化可能容器、複合素材についての研究・開発等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチック容器包装リサイクル推進協議会会員の日本プラスチック工業連盟にて、「プラスチック容器包装の機能と環境配慮」について取りまとめた。(プラスチック製容器包装) <p>リサイクルしづらいうラベルの廃止、はがしやすいラベルの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アルミ箔ラベルを使用しない等ガラスびんの 3R を推進するための自主設計ガイドラインに基づき、びんメーカー、主要ボトラー団体に協力要請を引き続き行った。(ガラスびん) <p>識別表示の推進・ガイドラインの検討等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「紙製容器包装の識別表示 Q&A」を編集製作しホームページに掲載した。 ・ 段ボールのリサイクルマーク印刷率 90% 以上を達成(段ボール) ・ PET ボトルの食品・飲料容器へのリサイクル(ボトル to ボトルの再生利用)について、厚生労働省 食品衛生審議会 食品衛生分科会 器具・容器包装部会 に参加協力をを行い、再生 PET 材料の食品用途への使用に関するガイドラインの作成に携わった。(PET ボトル)
洗浄・分別排出等への普及啓発	<p>18 ページの「各団体の情報提供・普及活動」をご参照ください。</p>
自主回収の研究・拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルミ付紙パックの、自主的回収の仕組み作りとして、市民団体との協働による「酒パックリサイクル促進協議会」の活動を支援した。(紙製容器包装) ・ 集団回収の支援・拡大のため、優れた回収団体・学校等を表彰(アルミ缶、スチール缶) ・ 全国的なスチール缶の市況状況の調査や、離島・山間部における使用済みスチール缶の分別収集・再資源化状況の調査等を実施。(スチール缶) ・ 紙パック回収ボックスを学校、自治体、市民団体、作業所、企業およびスーパー等の施設へ 2,195 個(過去累計で 20,265 個)配付。回収率が比較的低い清涼飲料水や 500ml 容器の回収促進の呼びかけを強化した。(飲料用紙容器)

2. 主体間の連携に資する取り組みの実績概要

2.1 関係八団体共同の取り組み

容器包装リサイクル制度の下、消費者・自治体・事業者による主体間の連携を進めることが求められています。当連絡会では事業者としての自主行動計画推進と並行して様々な主体間の連携に資する事業に取り組んでまいりました。

以下に、2010年度から2011年度にかけての取り組みを詳細します。フォーラムやセミナーは、当初より継続的に取り組んでおり、全国的に認知度が深まりつつあります。また、消費者リーダーのみなさんとの交流・共同の成果である「リサイクルの基本」を活用し、地域住民による「地域版」の作成支援も実施しました。さらに、2011年6月には2回目となる消費者意識調査も実施しました。これは2011年度を初年度とする第二次自主行動計画の一環でもあります。

主体間の連携に資するための関係八団体共同の取り組み

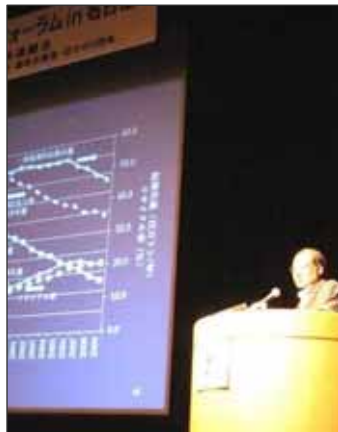
フォーラムの開催

「主体間の連携に資する取り組み」の一環として、自治体担当者の方を主な対象とするフォーラムを開催しました。このフォーラムでは、容り法の改正を経て、容器包装3Rと分別収集の先進的な取り組み事例の学習、それらに係わる情報交換・議論等のプログラムを通じ、消費者・自治体・事業者がどのような連携の形を目指したらよいか話し合い、方向性を共有することを目的としています。

2011年度フォーラム in なごや (10月24,25日)

今年で6回目となるフォーラムは、「容器包装リサイクル法の成果と課題」をテーマに、10月24、25日の2日間にわたり開催しました。

初日は会場であるウィルあいち(名古屋市東区)に171名の参加者を迎え、神戸大学大学院経済学研究科 石川教授の基調講演や4つの分科会が行われました。2日目は55名の参加で、(株)IHI環境エンジニアリング、新日鉄名古屋製鉄所の見学を行いました。



フォーラム全体会



フォーラム分科会

セミナーの開催

容器包装に関する消費者・自治体・事業者の取り組みの現実を知ること、地域での3R活動をするに当たっての課題解決など、様々な主体と共によりよい取り組みにつなげていくためのきっかけづくりとなることを目指してセミナーを開催しています。

●2010年度3Rセミナー in 名古屋(2011年2月5日)

2010年度セミナーは、2011年2月5日に名古屋で開催し、約150名の市民の皆さんの参加を得ました。基調講演として、中部大学行本正雄教授より「低炭素社会実現のための容器包装3Rの役割」の講演をいただき、その後リサイクル市民団体、スーパーマーケット関係者、名古屋市担当者、プラスチック製造団体をパネラーに迎え、活発な情報交換が行われました。

2011年度のセミナーは、2012年1月20日に福岡市で開催予定です。



3Rセミナーin名古屋



リサイクルの基本「地域版」ワークショップ(川崎市)

展示会への出展

日本最大の環境イベントであるエコプロダクツ2011(2011年12月15~17日)に、3R推進団体連絡会を構成する八団体が共同出展を行います。(写真はエコプロダクツ2010のもので)



エコプロダクツ2010 共同出展

リサイクルの基本「地域版」ワークショップ開催

2007年度より、消費者・事業者のネットワーク構築の場として、消費者リーダーと事業者との交流会を実施してきました。その成果の1つが3R啓発小冊子「リサイクルの基本」です。

今年度は次のステップとして、『「地域版」リサイクルの基本』を検討するワークショップを川崎市にて実施しました。

2011年7月15日と9月6日の2回、消費者リーダーと地域住民、行政担当者、事業者が参加し、持ち寄った「分別に困るもの」などを題材に排出ルールや回収方法を確認しました。

容器包装3R制度研究会の開催

よりよい容器包装3R制度に向け、業界だけでなく消費者や自治体、学識者を交え、現行制度の改良・改善の課題、制度見直しにおける主要な論点について検討するため、「容器包装3R制度研究会」を2010年度から今年にかけて、計5回開催しました。

本研究会は、立場が異なれば考え方や利害が異なることを前提とし、事業者と消費者、行政の間で意見が一致するのはどこまでか、逆に意見が大きく異なるのはどの部分なのか、その理由は何なのか等を整理することを狙いとしています。

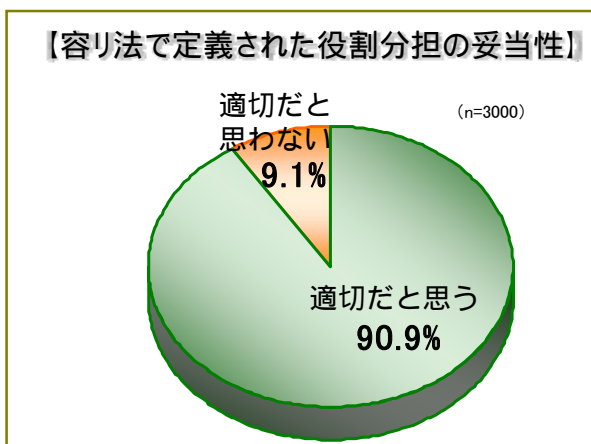
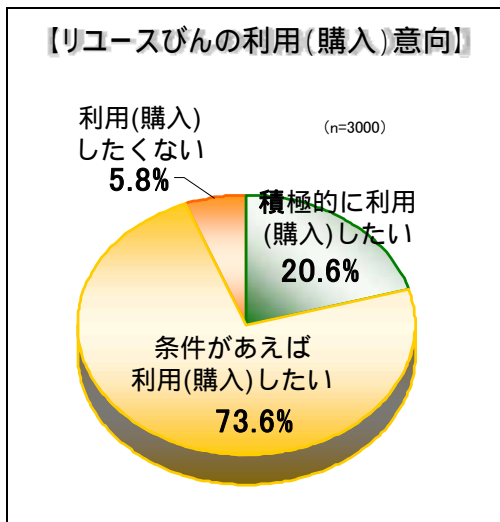
メンバーは、神戸大学大学院経済学研究科石川雅紀教授を座長として、消費者・行政・事業者からそれぞれを代表するステークホルダー計15名です。



容器包装3R制度研究会(2011年9月第5回)

消費者意識調査の実施

2009年に引き続き、3000名を対象とした消費者アンケート調査（インターネット調査）を実施し、2009年調査からの環境意識・行動の変化などを調査・分析しました。また、第二次自主行動計画の実施を見据え、リターナブル容器に関する意識・行動なども調査しました。



消費者意識調査（抜粋）

2.2 共通のテーマに基づく各団体の取り組み

上記の「共同の取り組み」に加え、本自主行動計画では「 各種情報提供や普及活動の推進」「 調査研究活動」を主体間の連携に資する共通テーマとして掲げ、各団体にて取り組むことを促しています。2010 年度も引き続き、多様な各種啓発活動、交流活動、調査研究活動が展開されました。主な取り組み内容は以下をご参照ください。

各団体の情報提供・普及活動 / 調査・研究活動の例

情報提供・普及活動

広報紙の発行

ガラスびんリサイクル促進協議会では、ガラスびんの 3 R 推進を目的として、広報紙「びんの 3 R 通信」を年 3 回発行しています。2010 年 8 月発行の 21 号では「あきびんの収集量拡大と品質向上に向けて」をテーマとし、びんの分別収集が良好な自治体を紹介させていただきました。23 号では、特集記事として、3 R 推進

「第二次自主行動計画」を取り上げ、ガラスびんの第一次自主行動計画の推進状況と第二次自主行動計画の内容を紹介しています。

詳細はホームページでご覧いただくことができます。



びんの 3R 通信

PET ボトルリサイクル推進協議会が年 2 回発行する広報誌 RING の No.27 では、中国における使用済み PET ボトル輸入条件の緩和政策に際して、



環境省リサイクル推進室の森下室長、経産省リサイクル推進課岡田前課長 に、国内循環を基本とする「円滑な引渡し」に関して語っていただきました。

RING27 号

3R 推進のパンフレット・パネルを作成・活用
紙製容器包装リサイクル推進協議会では、紙製容器包装の 3 R で実績を上げている各社の成果をまとめた「3 R 改善事例集 第 4 版」を作成しました。

業界全体のレベルアップの促進を図るとともに、主体間連携のための情報提供ツールとして活用・配布しています。また、識別表示の周知啓発を目的に、紙製容器包装に関わる Q & A を再編集し、ホームページに掲示しました。



3 R 改善事例集第 4 版

自治体との意見交換会を実施

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会は、2011 年 1 月静岡市において自治体関係者 77 名、事業者 46 名で第 5 回自治体と事業者の交流会を開催し意見交換を行いました。



自治体と事業者の交流会・分科会

●消費者向け冊子等作成・配布、環境展での啓発

スチール缶リサイクル協会では、スチール缶及びスチール缶のリサイクルについて判りやすく解説した一般消費者向け冊子「よくわかるスチール缶基礎知識」を製作しました。また、集団回収に関わる調査・研究の集大成として作成した「集団回収マニュアル～協働型集団回収のすすめ～」を用いて「協働型集団回収セミナー」を東京と京都で開催しました。



一般消費者向け冊子「よくわかるスチール缶基礎知識」



協働型集団回収セミナー（京都会場）の様子

●3R推進功労者表彰への推薦

アルミ缶リサイクル協会では、毎年、3Rに取り組む団体、個人を3R推進協議会主催の3R推進功労者等表彰に推薦しておりますが、平成23年度も9件の推薦をし、6件が会長賞を受けました。

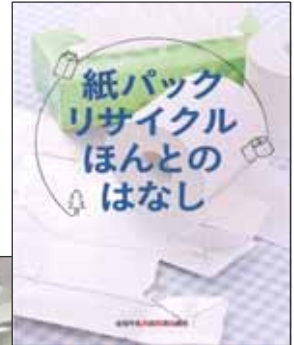
また、全国小中学校を対象に協会独自の回収優秀学校表彰を行っておりますが、今回の震災をきっかけに東北地方への候補参加呼び掛けを行いました。この結果、全国で69校の表彰が決定しました。



3R推進功労者等表彰式

地域会議・講習会等の開催と啓発リーフレットの発行

飲料用紙容器リサイクル協議会では、紙パックリサイクル促進に向け、全関係主体を招集して、意見交換会(都内)、地域会議(県単位)を開催した他、市町村単位で市民対象のリサイクル講習会、学校での出前授業を展開しました。また今年度は紙パックリサイクルの啓発ツールとして「紙パックリサイクルほんとのななし」を作成し、関係ルートを通じ全国に配付。紙パックの環境特性や紙パックのリサイクルには分別して紙パック単独で回収拠点に排出する大切さを訴えました。



出前授業

●科学館等のイベントへの協力による普及・啓発活動

段ボールリサイクル協議会では、盛岡市子ども科学館特別展「ダンボールワールド part2」(2010年8月1日～15日)のダンボールリサイクル情報コーナーにパネル、パンフレット、リサイクルのDVD等を提供し協力しました。その後2011年1月には岐阜県加茂衛生施設利用組合、岡山県環境保全事業団の同様のイベントにも協力しています。

盛岡市子ども科学館特別展
ダンボールワールド part2

調査・研究

輸入びん実態調査

ガラスびんリサイクル促進協議会では、輸入びんの実態を把握するため、定期的に中味別に容量・色を調査し、その国内流通量の推計のための基礎資料にしています。



輸入びん実態調査

リサイクルプラザ等で活用可能な啓発ツールの研究

PET ボトルリサイクル推進協議会では、自治体や地域住民との連携を推進するため、リサイクルプラザなど住民の活動拠点で活用可能な啓発ツールの開発を検討しています。その一環として、2010 年度は北区富士見橋エコ広場館、多摩ニュータウン環境組合「エコにこセンター」を訪問し、行政担当者や施設を管理運営する NPO との意見交換を行いました。



リサイクルプラザにおける意見交換

● 組成分析などの現場調査を実施

紙製容器包装リサイクル推進協議会では、自治体の分別収集の実状について3市のヒアリング調査と、5市の組成分析調査を実施しました。



紙製容器包装の組成分析調査写真

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会は、5市1町の自治体及び4社の再商品化事業者の施設を訪問し実態調査を行いました。



中間施設調査

● 離島における容器包装の3R推進状況調査、集団回収セミナーの開催

スチール缶リサイクル協会では、離島におけるスチール缶を含む容器包装の分別収集・再資源化の現況を把握するため、2010 年度から実態調査を開始しました。また、スチール缶の一部が高付加価値化のためシュレッダー処理され缶ス



資源物を積んで港へ向かうコンテナ類（石垣島）

クラブ以外の規格で製鉄原料として再資源化されている状況を把握すべく、全国のシュレッダー処理量の多い鉄スクラップ取扱事業者を訪問し、現地調査を行いました。



シュレッダー品調査の様子

EU アルミ協会・飲料缶メーカー会長との意見交換

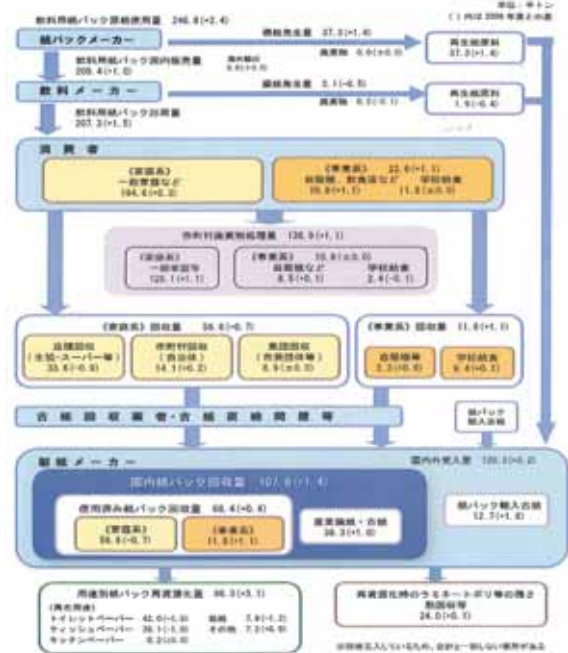
アルミ缶リサイクル協会では、ヨーロッパアルミニウム協会（EAA）の包装グループ長であるラバートン氏とヨーロッパ飲料缶メーカー会長のリンデ氏の来日にあわせ、日本の缶リサイクルの現状とヨーロッパの缶リサイクルの現状について意見を交わしました。

ヨーロッパでは、北欧・ドイツを除くとリサイクル率は、50%以下で、20カ国平均70%で、日本のリサイクル率の高率の理由を知りたいとのことでした。当協会から、日本の高率は自治体と住民と事業者の協働による成果であり、自治体の分別回収、住民の集団回収による缶が全国1000件近くの回収業者にて集められていること、消費者段階での分別の重要性とアルミ缶マーク、環境学校教育等のバックグラウンドを説明しました。

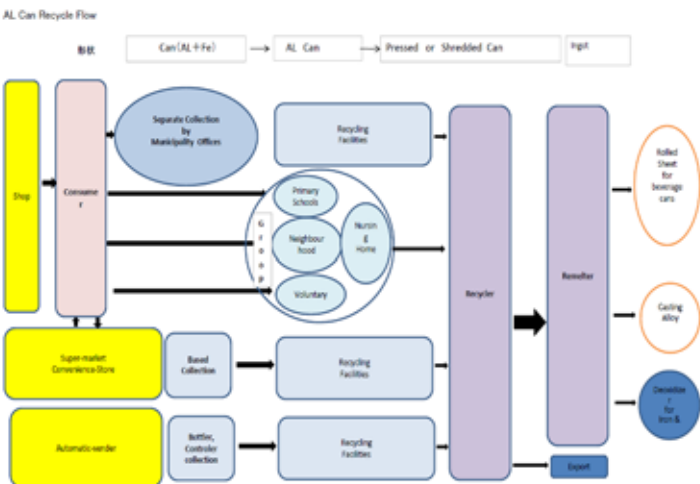
●リサイクルフロー、家庭系排出状況などの調査

飲料用紙容器リサイクル協議会では、1995年より独自調査による飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査を毎年実施しています。資源のマテリアルフローの作成、紙パックの各分野単位の回収率や回収業者などが有償で買い取っている価格の掌握など、全般的な調査分析を実施し、その結果を公表しました。

また、紙パック古紙の海外輸出について韓国での実態調査を実施しました。



段ボールリサイクル協議会では、(財)古紙再生促進センターから委託を受けて、家庭から排出される段ボールの家庭への搬入経路別、用途区分別排出量の調査(2010年9月) また独自に段ボール製造事業所における段ボールのリサイクルマークの印刷調査(2007年10月から3か月ごとに実施)を実施しています。



アルミ缶リサイクルフローの説明図

家庭から排出される段ボールの用途別構成比(%)

	H21	H22	前年との差
電気器具・機械器具	6.8	8.8	2.0
薬品・洗剤・化粧品	3.2	3.2	0.0
食品	11.0	10.1	▲0.9
ビール等酒類	11.1	12.0	0.9
飲料	27.4	29.3	1.9
青果物	12.4	10.7	▲1.7
繊維製品	1.3	1.0	0.1
ガラス・陶磁器・雑貨	3.3	3.1	▲0.2
宅配・引越し・通販	13.5	14.5	1.0
その他	5.1	5.2	0.1
不明	4.9	2.1	▲2.8
合計	100	100	0.0

3R 推進団体連絡会 第一次自主行動計画（2006～2010 年度）
5 年間の取り組み成果と 2010 年度フォローアップ報告

2011 年 12 月

3R 推進団体連絡会

ガラスびんリサイクル促進協議会
PET ボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会
